

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	行政・企業・NGO が対等なパートナーシップをもとに協働する、日本の緊急人道支援のしくみをモデルにした災害対応プラットフォーム（A-PAD BGD）構築に向け、本事業では、災害対応調整拠点として、バングラデシュ国の全 8 県のうち、全事業で設立した 4 県の災害対応センター（各県に 1 つ）に加え、新たに、ダッカ、ラジシャヒ、ロンプールの 3 県に災害対応管理センターを設立した。 実地調査により 3 県の災害リスクを特定し、災害リスクに応じた地域ごとの戦略計画を作成した。これにより、人的リソースや支援を災害リスク削減や災害対応の優先分野に統合する枠組みが整備された。 A-PAD BGD は平時より、官民が連携する災害対応プラットフォームとして機能し始めており、同国の人為的災害や自然災害に対し、迅速かつ効果的に支援を届けている。2020 年の新型コロナウイルス感染症、サイクロンアンファン、洪水などの自然災害に対し、プラットフォームのパートナーと協働し、特に医療・保健衛生分野で調整された迅速な支援を実施した。 今期は 14 の NGO が新たにパートナーに加わり、A-PAD BGD のパートナーは 25 となった。これにより、被災者に届けられる支援内容、エリアが大幅に拡大した。 A-PAD BGD は地域コミュニティの災害対応能力向上のための研修やワークショップ、緊急保健対応員の育成を通じて、コミュニティにおける防災の主流化を主導している。 災害多発地域における災害対応センターの設立と災害リスク特定、戦略的災害対応計画の策定
(2) 事業内容	1 <u>災害多発地域における災害対応管理センターの設立</u> 1-1 <u>災害対応管理センターの設立および災害時の緊急医療体制の整備</u> 前事業で設立したシレット、チッタゴン、クルナ、バリサルの 4 つの災害対応管理センターに加え、新たに、3 管区（ダッカ、ラジシャヒ、ロンプール）に 3 つの災害対応管理センターを設立した。新たに設立したセンターには、診療用の診察台や診療用機器等の緊急医療資機材を備え、災害時の緊急医療体制を整備した。 1-2 <u>ダッカ、ランジャヒ、ロンプール管区における災害リスク軽減、災害準備対策とリスク緩和計画のための災害リスク評価</u> ダッカ、ラジシャヒ、ロンプールにおける災害リスク評価を ICHB (Institute of Community Health- Bangladesh) と共同で行った。地域住民、行政職員、NGO 関係者など 1500 人を対象に災害リスク評価表に基づく聞き取り調査を行い、地域特有の災害リスクや課題が把握された。 1-3 <u>災害対応管理センターの活用</u> 災害対応管理センターは情報共有の他、戦略計画会議、研修、ワークショップ会場、啓発活動・緊急時の保健衛生に関する教育センターとして地域コミュニティに活用された。また、地域コミュニティや行政、NGO 間の調整拠点として地域の緊急支援を確実なものにしている。 1 日平均 30～35 人が災害調整センターを利用しており、年間で 21,000 人以上が同センターを利用した。

	2 A-PAD BGD の基盤強化 2-1 <u>A-PAD BGD ネットワークメンバーの（災害対応能力・即応体制評価）自己評価</u> チッタゴン、クルナ、バリサル、シレットの4管区を対象に月に1度1団体以上を目標に戦略計画会議の中で自己評価を実施する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大により、会議の開催が困難となったため、月ごとに自己評価表を送付し、後日回収する形で自己評価を実施した。 チッタゴン、クルナ、バリサル、シレットの4管区の19の組織とラジシャヒ、ロンプールの6つの組織の計25の組織が自己評価票を行い、各組織の持つリソースがリストとして集約された。この自己評価分析は、各組織の持つ災害対応能力・即応体制を評価し、災害時および災害後に協力して機能するNPFを組織するために実施した。リストはA-PAD BGDのウェブサイト上で公開している。https://cis-bd.org/apad/partners/ 2-2 <u>戦略計画ネットワーク会議の開催</u> ダッカ、ラジシャヒ、ロンプールの各管区内の5村で計15回戦略計画ネットワーク会議を開催し、地域住民、コミュニティリーダー、行政職員、NGO職員など計1500人が参加し、各管区における防災・災害準備・災害対応・復旧復興に係る戦略計画を策定した。具体的な行動計画として災害時に活用される予定である。 9月26日 Ramna ダッカ（参加者100人） 9月27日 Korail ダッカ（参加者100人） 9月28日 Mohakhali ダッカ（参加者100人） 9月29日 Moghbazar ダッカ（参加者100人） 9月30日 Khilgaon ダッカ（参加者100人） 10月17日 Momenpur ロンプール（参加者100人） 10月18日 Jumma ロンプール（参加者100人） 10月19日 Senpara ロンプール（参加者100人） 10月20日 Guptopara ロンプール（参加者100人） 10月21日 Satgara Mistripara ロンプール（参加者100人） 11月9日 Monoharpur ラジシャヒ（参加者100人） 11月10日 Tebunia ラジシャヒ（参加者100人） 11月11日 Bahadurpur ラジシャヒ（参加者100人） 11月12日 Radhanogor ラジシャヒ（参加者100人） 11月29日 Goyespur ラジシャヒ（参加者100人） 2-3 <u>A-PAD BGD ネットワークパートナーの能力強化</u> A-PAD BGD ネットワークパートナーを対象とした、2日間の研修を計14回開催し計1400人が参加した。特に洪水とサイクロンに関する初期の予測に対する意識が高まった。 2月10日-11日 ダッカ（参加者50人*2団体） 参加団体：Hasan Foundation、ANANDO 2月16日-17日 シレット（参加者50人*2団体） 参加団体：Habiganj Unnayan Sangstha、Peoples Association for Social Advancement (PASA) 6月16-17日 バリサル（参加者50人*2団体） 参加団体：Atkhali Community Unnayan Shangstha、Community Development and Health Care Center (CDHC) 6月21-22日 クルナ（参加者50人*2団体）
--	---

	参加団体：Al-Karim Foundation、Novoshakti 7月05-06日 バリサル（参加者 50 人*2 団体） 参加団体：Grameen Shakti、Pjajukti Pith 7月08-09日 クルナ（参加者 50 人*2 団体） 参加団体：Rupantor、Badhon Manob Unnayaon Sangstha 8月04-05日 ラジシャヒ（参加者 50 人*2 団体） 参加団体：Pabna Protisruti、Osaca 8月24-25日 ロンプール（参加者 50 人*2 団体） 参加団体：RDRS Bangladesh、UDDIPAN Rangpur 8月26-27日 シレット（参加者 50 人*2 団体） NGO、Government organizations 9月19-20日 ラジシャヒ（参加者 50 人*2 団体） ASEAB、Prottasha 9月28-29日 チッタゴン（参加者 50 人*2 団体） PHALS、Bangla German Sompriti 10月14-15日 ダッカ（参加者 50 人*2 団体） Seven One、Unnayan Sangha 11月17-18日 ロンプール（参加者 50 人*2 団体） AMUS、ESDO 12月14-15日 チッタゴン（参加者 50 人*2 団体） Prattoy、CDS
	2-4 <u>A-PAD BGD ネットワークメンバーの募集</u> ネットワーク会議を通じて、ネットワークメンバーの募集を行い、国際シンポジウムにおいて14の組織と新たにMOUを締結した。これによりA-PAD BGD 災害対応プラットフォームのパートナーは25となった。
	2-5 <u>防災に関する国際シンポジウムの開催</u> 11月25日、ダッカにおいて「ニューノーマル時代における災害リスクマネジメント-コミュニティ、プライベートセクター、市民社会の役割-」と題した国際シンポジウムを開催し200名が参加した。コロナ禍で開催されたシンポジウムは会場とオンラインの同時開催とした。防災・災害対応に関わる政府・地方自治体、市民団体などが参加するとともに、A-PAD 及び A-PAD 加盟国の代表者はオンラインで参加した。 伊藤直樹在バングラデシュ日本大使、バングラデシュ政府の災害管理ディレクターの Kamrul Islam Tang 氏、内閣部門共同秘書官の Sabirul Islam Biplob 氏、Dhaka の副委員長の Shahidul Islam 氏などが参加した。 Kamrul 氏は、バングラデシュの災害や社会問題に取り組むための強力なローカルネットワークの必要性を強調した。より安全な未来を築くためには、災害時の被害を防ぎ、最小限に抑えるためのより良い調整、利害関係者間の協力と情報共有が必要であると発言した。
	3 地域コミュニティの災害対応能力強化
	3-1 <u>防災能力向上のための教材、パンフレット、ポスターの更新</u> 研修およびワークショップのための教材、ポスター、パンフレットの3点を、防災専門家の協力を得て更新を行った。新型コロナウイルス感染症の流行および感染症流行下の自然災害発生など、新たな災害リスクを踏まえて更新を行った。

	3-2 <u>コミュニティレベルの防災能力向上ワークショップ・研修の実施及び保健サービスを提供する関係者間のネットワーク構築</u> a) 災害対応・緊急保健対応ワークショップ ダッカ、ラジシャヒ、ロンプール管区で3日間のワークショップを計12回開催し、地域住民、コミュニティリーダー、NGO スタッフ、市民団体など600人が参加した。 下痢や皮膚病など、災害後の典型的な問題を中心に議論が行われるとともに、応急処置の方法について講義が行われた。特に限られた時間と設備でより多くの人々を扱うなど、災害状況下の特別なニーズにおいて参加者の知識レベルを向上させた。近年、緊急対応や災害対策の分野で緊急保健対応を担う専門家の需要が大幅に高まっている。ワークショップの広範なプログラムは、緊急事態によってもたらされるリスクの回避およびリスクを最小化するための主要な概念、方法論、および応急処置ツールの包括的な理解を促進するものとなった。 2月24-26日 ダッカ 9月5-7日 ダッカ 9月8-10日 ロンプール 10月3-5日 ダッカ 10月5-7日 ロンプール 10月10-12日 ラジシャヒ 11月10-12日 ロンプール 11月21-23日 ラジシャヒ 12月5-7日 ラジシャヒ 12月22-24日 ロンプール 1月05-07日 ラジシャヒ 1月11-13日 ダッカ (各回の参加者50人) b) ローカル NGO 緊急保健対応員研修 ダッカ、ラジシャヒ、ロンプール管区で5日間の研修を、計6回開催し、災害時と災害後に活動する地元のNGO緊急医療提供者など150人が参加した。被災地で最初に活動することになる緊急保健対応員は災害時に重要な役割を果たしている。研修では、感染症流行下の複合災害における対処方法に焦点を当てた。さまざまな種類の災害に対応するため、幅広いトレーニングカリキュラムとした。参加者は実習を通じて、緊急対応への自信をつけることができた。 9月6-10日 ラジシャヒ 9月12-16日 ロンプール 10月4-8日 ラジシャヒ 10月18-22日 ダッカ 11月7-11日 ダッカ 12月26-30日 ロンプール (各回の参加者25人) 3-3 <u>官民連携のイノベーションモデル成功モデル創出に向けたセミナー</u> 政府関係者、教師、コミュニティリーダー、地域住民、NGOなどが参加する1日のセミナーを管区ごとに2回、計14回開催した。セミナー形式でテーマについて意見交換及び討論を行った。 セミナーでは、災害リスク管理に関するケーススタディが示さ
--	---

	れた他、政府当局者は、政府の立場から、災害時の規則や規制などの情報を共有した。参加者らは、官民連携セミナーの開催及び、災害対応プラットフォームの設立を高く評価した。 9月3日 バリサル 9月17日 シルハット 9月24日 ロンプール 9月27日 ラジシャヒ 10月6日 チッタゴン 10月18日 シルハット 10月22日 バリサル 10月29日 ダッカ 11月7日 バリサル 11月8日 チッタゴン 11月11日 クルナ 11月28日 ロンプール 12月3日 ダッカ 12月24日 ラジシャヒ （各回の参加者 100 人） 3-4 <u>E リソースとしての防災ウェブコンテンツの充実</u> 新型コロナウイルスの感染拡大を背景に、正しい手洗いの方法など保健衛生意識向上を目的とした感染予防動画を DCH トラスト（Dhaka Community Hospital Trust）と共同で作成し、ウェブサイトで公開したほか、国際シンポジウムに関する情報を公開した。 https://cis-bd.org/highlight/ https://cis-bd.org/apad/press-release/ https://cis-bd.org/apad/leaflet/ https://cis-bd.org/apad/news-letter/ https://cis-bd.org/apad/print-media/ https://cis-bd.org/apad/video/ https://cis-bd.org/apad/story/ All Posts – A-PAD Bangladesh (cis-bd.org)
（3）達成された成果	1 <u>災害多発地域における災害対応管理センターの設立</u> 1-1 <u>災害対応管理センターの設立および災害時の緊急医療体制の整備</u> 対象3管区（ダッカ、ラジシャヒ、ロンプール）に3つの災害対応管理センターを設立した。 （災害対応センターの設立数：3/目標数3） 1-2 <u>ダッカ、ランジャヒ、ロンプール管区における災害リスク軽減、災害準備対策とリスク緩和計画のための災害リスク評価</u> 地域住民 270 人超、関係者 50 人超、NGO 関係者 100 人超に対する災害リスク評価調査を実施し、地域特有の災害リスクや課題が把握された。 （成果物：災害リスク評価レポート） 1-3 <u>災害対応管理センターの活用</u> 災害対応管理センターは団体間、関係者間の調整会合に利用された。また緊急時には緊急保健サービスが提供された。 新型コロナウイルス感染拡大の影響により3月から7月頃までは約8人/日×25日×7管区、ロックダウン終了後の8月頃か

	ら1月までは約12人/日×25日×7管区、最終的に21,000人以上が災害対応管理センターを利用した。 (利用者数: 21,000人(災害対応研修、ヘルスアウェアネス、ネットワーク構築)/目標数21,000人) 新型コロナウイルスの感染拡大後は、スタッフへのトレーニングを実施し、感染症予防に重点を置いた保健、公衆衛生指導を行った。また、感染予防、公衆衛生を目的としたリーフレット、冊子を制作し、5,000人以上に配布した他、感染防止のためのスタンドバナーを制作し、手洗い場とともにマーケット、病院、学校の入り口など21カ所に設置した。低所得のコミュニティに対し、安価な材料で自作できる石鹼水の作り方の指導を行った。 緊急保健サービスの提供実績: 5月下旬にバングラデシュを襲ったサイクロン「アンファン」において、緊急支援活動を実施した。このサイクロンにより26人が死亡、約71万世帯が被災、さらに5~6万戸以上の家屋が全壊、22万戸以上が部分損壊と報告され、同サイクロンによる損害額はバングラデシュ国連常駐調整官事務所によると1億3,000万ドル(約140億円)に及ぶと推定されている。A-PAD BGDではローカルパートナーと協働して、医療・公衆衛生支援所を設置し下痢や脱水症状などの相談や対応にあたったほか、緊急支援活動として、フードパック、ブルーシート、ORSを500家族2500人に配布した。 7月中旬に発生した洪水において、緊急保健サービスを提供した。この洪水によりバングラデシュの国土の約3分の1が水没、83人が死亡、330万人が影響を受けたとされる。A-PAD BGDではローカルパートナーと協働して、災害対応管理センターに配備した医療資機材を活用し、医師とメディカルアシスタントを含むチームを派遣し、ハビガンジとロンプールの救護所を設置、ローカルパートナーと共同で創傷など1312人の応急処置にあたった。この他にもローカルパートナーは、下痢やコレラなどを予防するためORSと薬を提供した。ハビガンジでは、合計1,500個のORSが洪水の影響を受けたコミュニティに配布された。 活動を通じて、パートナーの高い災害対応能力、即応体制が確認できた。
2	A-PAD BGD ネットワークメンバーの(災害対応能力・即応体制評価) 自己評価
2-1	<u>A-PAD BGD ネットワークメンバーの(災害対応能力・即応体制評価) 自己評価</u> 25の組織が自己評価を行い、メンバーの役割、責任範囲、能力、利害関心事が明確になった。各組織の持つリソースがリストとして集約された、A-PAD BGDのウェブサイト上で公開している。https://cis-bd.org/apad/partners/ (成果物: 自己評価分析結果)
2-2	<u>戦略計画ネットワーク会議の開催</u> 1,500人が戦略計画会議に参加し、集団的な意思決定のプロセスを経てダッカ、ラジシャヒ、ロンプールの各管区の戦略計画が策定された。

	(成果物：戦略計画) 2-3 <u>A-PAD BGD ネットワークパートナーの能力強化</u> 研修後の自己評価で、参加者の 87%は、災害時に自分自身とコミュニティを保護するのに十分な能力があると回答した。 (87%が研修後の自己評価で十分な能力があると回答した/目標数 20%以上の能力向上) 新型コロナウイルスの影響で 2-1 の自己評価の実施が遅れたため、研修後の自己評価のみとなった。 2-4 <u>A-PAD BGD ネットワークメンバーの募集</u> A-PAD BGD ネットワークパートナーが 14 増加した。 (MOU 締結数：14/目標数 10 以上) 2-5 <u>防災に関する国際シンポジウムの開催</u> シンポジウムに国内外から 200 人以上が参加し、日本、韓国、スリランカ、インドネシアなどの防災に関する先進事例が 5 ケース以上共有された。 (参加者アンケートで 93%以上がシンポジウムが有効だと回答した/目標数 80%以上) 3 地域コミュニティの災害対応能力強化 3-1 <u>防災能力向上のための教材、パンフレット、ポスターの更新</u> 研修マニュアル、パンフレット、ポスターが更新され、ワークショップ・研修の受講者 750 人が利用した。 (ワークショップ・セミナー受講者数 750 人) 3-2 <u>コミュニティレベルの防災能力向上ワークショップ・研修の実施及び保健サービスを提供する関係者間のネットワーク構築</u> a) 災害対応・緊急保健対応ワークショップ ワークショップを 12 回 (3 管区で各 4 回) 開催し、600 人が受講した。(受講者数：600 人/目標数 600 人) b) ローカル NGO 緊急保健対応員研修 研修を 6 回 (3 管区で各 2 回) 開催し、150 人以上が受講した。 (受講者数：150 人/目標数 150 人) 3-3 <u>官民連携のイノベーションモデル成功モデル創出に向けたセミナー</u> 官民参加の会議を 14 回 (7 管区で各 2 回) 開催し、7 つ以上の官民連携の取り組みが確認された。 (成果物：会議レポート) 3-4 <u>E リソースとしての防災ウェブコンテンツの充実</u> ウェブサイトを 18 回更新した。 (ウェブサイトの更新回数：18 回/年/目標数月 1 回以上)
--	---

(4) 持続発展性	A-PAD BGD 事務局である CIS は、アジアパシフィックアライアンス (A-PAD) および ADRRN (ASIAN DISASTER REDUCTION & RESPONSE NETWORK) とパートナーシップを結んでいる。CIS は、バングラデシュの都市部と農村部の両方で、統合された持続可能なコミュニティ主体のプログラム実施を目指す。本事業を通じて、行動計画の策定、行動計画のフォローアップ、経験豊富なスタッフの採用及び育成を行っている。事業を持続可能なものとするために、コミュニティの関与をより重視し、地元のステークホルダーやさまざまな組織を巻き込んでいる。 この点で、A-PAD BGD はすでになんらかのコミュニティ会議、戦略的計画会議、および地域コミュニティやさまざまな市民団体、地元の NGO、政府関係者との研修ワークショップを実施している。現在 25 の NGO と企業が A-PAD BGD のパートナーとして参加している。 本プロジェクトを通じて、ネットワークとしての全国的なプラットフォームの確立を目指す。35 以上の異なる組織が参加する A-PAD BGD が形成された後は、運営資金として、A-PAD ネットワークメンバーからの会費、災害時のファンドレイジング、ネットワークメンバーからの追加寄付を活動の主な収入源としつつ、個人、法人、国内外の団体や法人からの寄付を募り、事業を持続発展させていく。
------------------	--